

揖保川流域委員会現地視察時の説明

神河橋

(バス車内での説明：神河橋付近)

河川管理者 今、神河橋の真上にあります。この神河橋ですが、平成2年9月にありました19号台風で流れました。この時総雨量約320ミリ降りまして、下流の龍野地点で最大流量が毎秒2,100トンという水が流れました。一宮町で100世帯が避難したということがあります。この橋は、もともともう少し下流のほうにあったものですが、建て替えた時に上流のほうに移したということがございます。

森本委員 ここの橋はいつも流れるんです。こちらのほう、高瀬といいます。それから向こうは五十波なんです。昭和20年の枕崎台風でこのへんの家はみんな水に浸かりました。それから五十波のほうも水に浸かりました。神河橋が頑丈だったら五十波のほうは水に浸かってしまうんですが、適当に流れてくれるから五十波のほうの人は助かるということがあります。

このあたりに、昔は溝がありました。今はちょっと低いですが、ホロ口池という池がありました。ここへ洪水の時は水が入ってきておりました。大水が出たら怖いところだったんです。

今の神河橋は、新しく掛け替えられて、こんなに高く大きくなったので、流木の掛かることもないだろうけど、昔の橋は橋脚の幅が狭かったので、材木などが引っ掛かり、水をせき止め、大きな被害を出したのだらうと思います。

(バス車内での説明：神河橋下流の中洲の西側を下りながら)

森本委員 今はこちらへ川が流れておりますが、向こうの川のおそこのところが滝のようになっており、ドンドンと言いますが、大きな岩があったので、昔筏師が事故で亡くなったことがあります。そのために中洲の向こう側に筏流しの溝がついておったんです。その溝にはいろんな魚が泳いでいました。私たちは秋になると、サガリといって、カニが下がってきたら入るカゴをつけておりました。